

2 通常学級に在籍する困り感のある児童生徒への対応・連携について

アドバイザー：長島小学校 井上 美樹子氏

通常学級に在籍する多動の児童への対応

【こんなことで悩んでいます】

- ・多動の児童への対応はどうしたらよいか・・・。
- ・通常学級の児童が学校内を徘徊しているが・・・。
- ・心落ち着く場所を用意しているが、結局は特別支援学級のクラスへ行くことが多い・・・。
- ・特別支援学級の担任として何ができるのだろうか・・・。

【こんな対応はどうでしょうか】

- 多動の原因や徘徊している原因は何かを探る。
- ある程度原因が分かっているのであれば、子どもの気持ちを代弁してあげる、また、職員全体で共有するといったのでは？
- 担任がきちんとさせようとするあまり叱ってしまったり、連れ戻そうと手を引いたりするので抵抗してしまうのでは？
- 聴覚優位なのか視覚優位なのかを見極める。学習環境で刺激になるものは片付けるなど環境を整えてみては？
- 落ち着いている場面もあるはず。なぜ、落ち着いているのか考えてみるとそこにヒントが隠されているかもしれない。
- ルーティーンにはまると熱心に取り組む場合もある。
- 雑談の中で、通常学級の担任にさらっとアドバイスしてみたり、コーディネーターからアドバイスをしてもらったりしてみてはどうか？
- 総合的にその子を見ているのは学校の先生なので、いろいろな情報を集める。そこにベテランの先生からアドバイスをもらえるのでは？
- 必要に応じて外部の相談機関につなぐことも考える。
- 通常学級のシステムに子どもを合わせるのではなく、子どものニーズに寄り添う。
- 周りの子どもたちを育てるのも大事。

井上先生より



☆子どもの見立てができた時（視覚優位だった!と気づけた時）に自分も嬉しかったし、保護者も喜んでくれた。教師の見立てがきちんとできると、子どもへの適切な支援に繋がる。よく子どもを観察し、実態把握することが大切。

☆総合学校教育センターで作成している資料なども活用すると良い。
（青森県の先生の困ったを良かったに変える支援ヒント集）